

# 新たな観光名所が続々誕生



当時の新聞記事で振り返る  
**ときわ公園 タイムズ**  
 Tokiwa Park Times  
**その2**  
 1957年(昭和32年)7月9日  
 1960年(昭和35年)7月18日  
※古い新聞記事は現代の文体に合わせて再編集しております。あらかじめご了承ください。



## 色とりどりのリボンを首に 常盤池で盛大な「白鳥、放養式」

**東洋一の白鳥の湖となる**  
 常盤池で白鳥放養式が盛大に行われ、赤や青、緑のリボンをつけた20羽の白鳥が市中パレードを経て湖畔に到着。約5000人の市民が歓迎した。不在の三隅市長に代わり星出助役があいさつし、「市民の憩いの場として常盤公園を立派に整備したい」と語った。浜野副議長や国吉信義翁も、関門国道トンネル開通を見据え「東洋一の白鳥の湖を目指す」と夢を語った。国立公園審議会の折下吉延委員長は「理想の実現には10年かかるが、美しい公園をもちたい」と呼びかけた。モーターボートで白鳥2羽が湖上に運ばれ、星出助役の手で放たれると、観衆はその優雅な泳ぎに見入った。こうして常盤公園に新たな観光名所が誕生した。

1957年(昭和32年)7月9日

## 常盤遊園地めでたく誕生

### よい子の夢の楽園 盛大に開園式行う

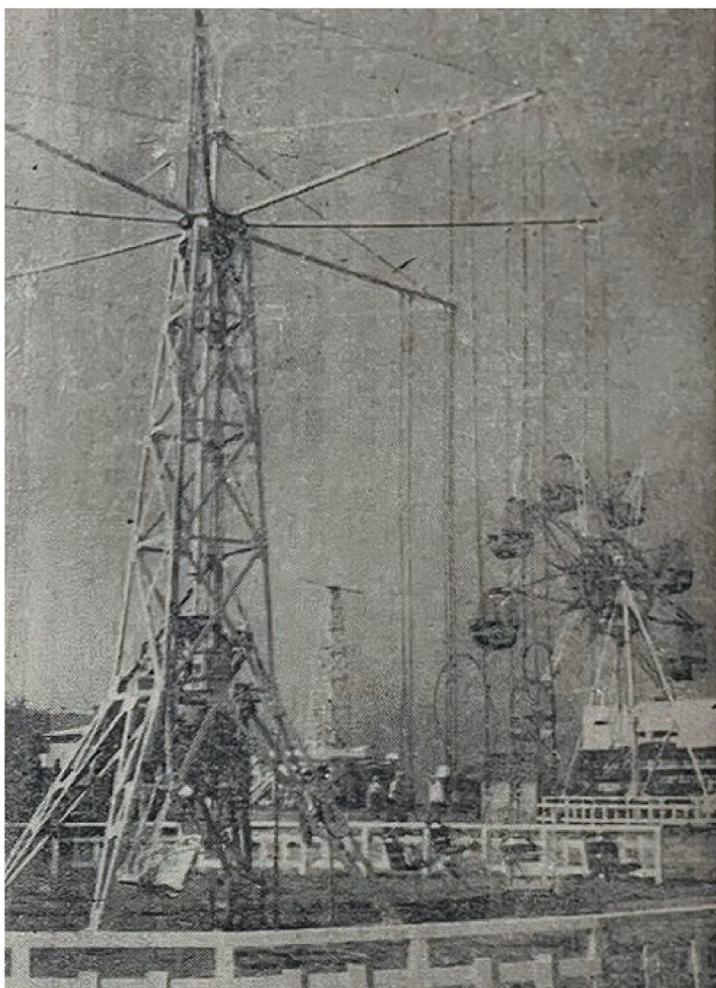


にぎわう開園の様子

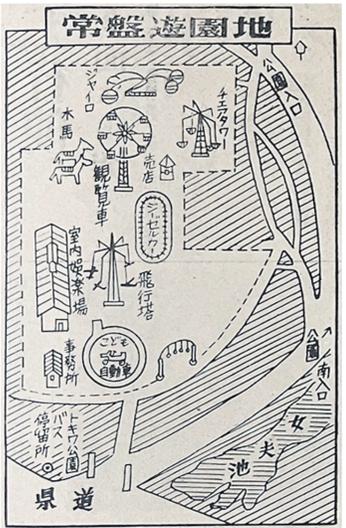
白鳥五十数羽を放養して一躍有名になった高台の常盤公園に、よい子の楽園「常盤遊園地」ができた。飛行塔、チェアタワー、ジャイロ、観覧車、ディーゼルカー、子供自動車、木馬バンビの他、キャッチボール、子供ボーリング、鬼のへそ抜き鬼泣かせ、ステレオ、ハミリシネマなどが備わった室内遊戯場と、ま

近郊では見られない内容を盛り込んだ遊器具が所せましと並んで、人気を集める。入園料は無料だが、遊器具使用料は1回

10円。家族連れで十人分楽しめる施設がやっと思いがあつた。第二期以降の工事を続け完成するのはいつになるかわからないが、とにかくすばらしい遊園地に仕立てる算段らしい。ウエーブコースター、ウォーター



シフト、メリーゴーランド、宙返り飛行機、ドライブカー、高速空中電車、迷路、モノレールなどはまだできない。しかし、図のような今度の分だけでも夢の楽園。この遊園地の完成で人波はぐんと増えそう。むろん、



1958年(昭和33年)6月20日

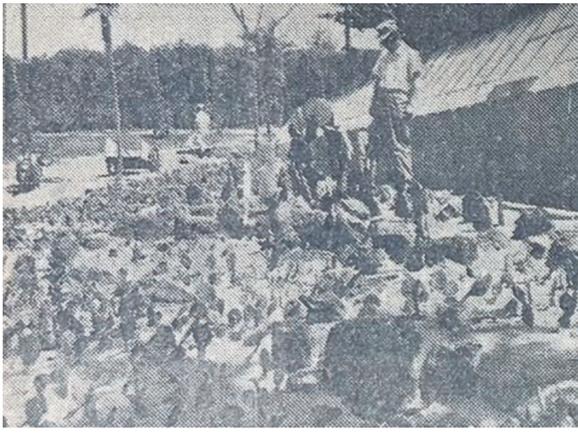
## 常盤遊園地のジェットコースター

こどもたち待望のときわ遊園地「ジェットコースター」が始動。市ではその試乗を行った。このコースターは軌条距離4000尺、スピードは最高50キロの速さとなり、6人乗り4両が走るもので、軌条カーブの最高87度、勾配24度程度の傾斜が4、5カ所あり試乗会でも乗る人々の表情も強張っていたが、2分20秒の軌条を走って帰着した時は思わず「こりこり。胸のすくスリルを十分味わった。この総工費は950万円。入場料は大人40円、子ども20円。

1959年(昭和34年)4月2日

## 種々さまざまな4000本 常盤公園のサボテン園 出来上がる

「観光常盤」の名物にしようと計画が進められていたサボテンセンターは、さきに公園入口に立派な温室が出来上がったが、引き続いてサボテン博士で知られる伊藤芳夫氏の構想で、その南側に82平方尺の岩組みによるロックガーデンが出来上がった。

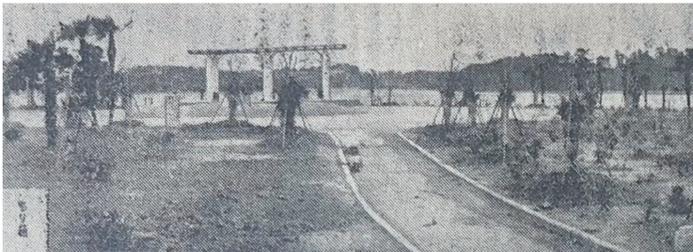


植えられたサボテンは約4000本。種類はオープンチャ・オープンチャ（這うちわサボテン）やオープンチャ・エンゲルマニア（天人うちわサボテン）など。総作業費を見積もると40万円。来年には温室北側99平方尺にもロックガーデンを作る構想がたてられている。

このロックガーデンは砂山に岩石を各所に配してその中に点々と大小のサボテンが林立し、今は小さいが、これが生長すれば一偉観を呈するだけに、行楽客の目を楽しませている。

1960年(昭和35年)7月18日

## 熱帯樹そよぐしずかな憩いの場 フェニックスやビンロウ樹に囲まる



### 常盤池畔の渡辺熱帯植物園

「新宮」を中心とする1万6000平方尺に先に故渡辺剛二氏の遺族から市へ寄贈された資金100万円ですべての建設費が、このほど完成した植物園は、常盤池に沿って湖から吹く春風に数百年のフェニックスやビンロウ樹がそよぎ、群れ遊ぶ白鳥の展望など、親子連れで静かに憩える施設が訪れる人々を喜ばせている。

市はかねて星出市長はじめ公園緑地課関係者の中で常盤公園の白鳥、遊覧施設とは別に、同公園を訪れる人が、誰でも親子連れで、静かに弁当を食べ、楽しく憩える場所を作りたいと考慮し、熱帯動植物園の構想をたて、昨年から着工していた。

1960年(昭和35年)4月21日